

2013-2014年南アフリカ・ゴールドリーフ缶詰状況

ゴールドリーフ缶詰は、日本市場において長年に渡りご愛顧頂いておりますが、製造元ランゲバーグ & アシュトンフーズ社(南アフリカ)は、黄桃缶詰を中心とした果実缶詰パッカーとしては世界でも有数の大規模な製造工場であります。

例年11月下旬～翌年5月までの5ヶ月超の間に、原料搬入ペースでアンズ23,000トン、黄桃75,000トン、洋梨34,000トン(フルーツカクテル用含む)の処理計画があり、一日平均にすると1,000トン以上、ピーク時には1,500～1,800トンの原料を受け入れしております。

今シーズンの状況ですが、まず杏子については、11月下旬より製造を開始しており、12月下旬に終了の予定で、収穫・製造は順調に進んでおります。

黄桃に関しては、例年通り12月下旬より製造開始の予定をしており、作柄見込みは平年作並で推移しています。しかしながら、中国市場の需要が大幅に強まり、今期は特に2号缶ハーフ(粒サイズ:6-9カウント)に関して、日本市場向け数量が減少する事が懸念されています。

黄桃の製造時期後半(2月下旬)よりフルーツカクテル、その後洋梨の製造がスタートしますが、12月中旬現在、例年通りの収穫が迎えられると見られております。

価格面では、電力費や人件費等の上昇がしており、製造費用の大きな負担となっております。その為コスト増となっておりますが、対ドルでの南アフリカ・ランド安によりオファー価格はある程度相殺される見通しです。但し、為替の円安が進んでいる現状では、輸入価格は上昇するのが必至の状況です。



現地の状況



収穫の様子